



院長のひと言



医療的ケア児という子どもたち

医療的ケア児とは、生活するために医療機器を必要とする子どもたちのことです。自宅で呼吸を維持するために人工呼吸器が必要であったり、栄養を摂るために経管チューブが必要であったりします。「医療的ケア児」という言葉は学校現場で話題になり始め、1991年に公的文書に登場しました。医学の進歩によって、これまで救えなかった子どもたちが生活できるようになりましたが、その一方で医療機器によるサポートが欠かせません。

私が医師になった頃、40年近く前には、人工呼吸器を使用している子どもは退院できませんでした。大きくなって病院で暮らさざるを得なかったのです。当然、NICU(新生児集中治療室)病床数には限りがあるため、そのような子どもたちが増えると病床はすぐに満床となります。平成に入り、ついに満床のため、命の危機が迫った新生児たちが入院できなくなる事態が生じました。これが「NICU出口問題」です。

このため、病態が安定した子どもについては、たとえ人工呼吸器のような高度医療を受けていても、自宅へ退院することになりました。こうして地域で暮らすようになった子どもたちが、医療的ケア児です。現在、全国で約2万人、八王子市では150人ほどが生活しています。

私は、出身大学の小児科が新生児医療を専門としていたことから、新生児医療を入り口に小児医療の道に進みました。当時は「出産時の蘇生技術が向上すれば、脳性麻痺はなくなる」という夢が語られていました。今では考えられないほど過酷な勤務の中で、新生児医療に全力で取り組みました。しかし、障害をもつ子どもたちは思ったほど減りませんでした。新生児医療は、赤ちゃんが亡くなる現場でもあります。救命できても後遺症が残り、退院していく子どもたちも多く、虚しさ、悲しさ、悔しさを抱えていました。

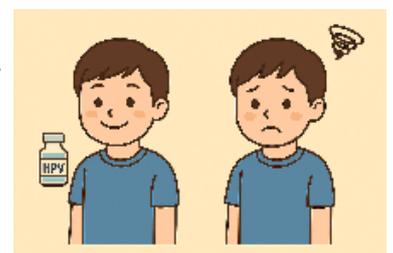
こうした経緯から、当院では医療的ケア児への在宅診療を行っています。時に、かつてやり残した仕事に向き合っているような感覚になることもあります。在宅診療で医療的ケア児とかかわっていると、ご家庭は大変な状況にありながらも、決して不幸ではないことに気づかされます。家庭で過ごすことのできている医療的ケア児たちはいい笑顔を見せてくれます。日々のケアに疲れ果てていても、ご家族の表情は決して暗くありません。

日本では、子どもの自殺が年間500名を超えています。「五体満足」であるはずの子どもたちが、不幸の終着点である自殺を選んでいきます。一方で、医療的ケア児やその家族は、不便を抱えながらも日々の命を力強く謳歌しています。人の「生と死」、「幸福と不幸」について、私は日々の診療の中で問い続けています。

HPV ワクチン 男子にもおすすめです

HPV(ヒトパピローマウイルス)は、女の子の子宮頸がんの原因として知られていますが、実は男子にも関係があります。中咽頭がんや肛門がん、尖圭コンジローマなど、男性に起こる病気の原因にもなるのです。海外では男女ともに接種が当たり前になっていて、感染予防やがんのリスクを減らす効果が確認されています。日本では女子のみが定期接種の対象ですが、八王子市では2025年4月から男子にも接種費用補助が始まり、約半額の費用で受けられるようになりました。HPVは性別に関係なく感染するため、男子がワクチンを受けることで自分の健康を守るだけでなく、将来のパートナーを守ることもつながります。思春期から若いうちに接種するのが効果的とされているので、この機会にぜひご検討ください。

当院でも接種を受け付けていますので、気になる方はスタッフまでお気軽にお声がけください。





スタッフ徒然日記

私は日頃からよく音楽を聴いています♪
仕事の時以外は、その時の気分に合わせて昭和から令和までのいろいろな曲を聴いてパワーをもらっています。春が待ち遠しいこの時期に聴きたくなるのが『卒業ソング』。

“さよならぼくたちのようちえん” “にじ” “カイト” “3月9日”
“旅立ちの日に” “揚げば尊し” “大地讃頌” などなど。

皆さん『思い出の卒業ソング』はありますか？
学生時代の曲は、将来に向けて背中をおされた懐かしい記憶が思い出されます。そして子育てをしてからは、保育園・幼稚園・小学校それぞれ子どもの成長と共に思い出の曲が出来ています。

卒業や進学の時。こども達の小さな胸の中も、ワクワク・ドキドキ・ソワソワ…少し不安定になることもあるかと思います。寒暖差や花粉に悩まされる時期でもありますが、『早寝早起き朝ごはん』+『お気に入りの曲』で元気に過ごしていきましょう♪

スタッフ E



第2棟でアレルギー外来が始まりました

非感染の第2棟(通称ワクチン棟)にて、新しくアレルギー専門外来を開設いたしました。担当はアレルギーを専門とする女性の先生です。赤ちゃんの離乳食を始めたばかりで「食物アレルギーが心配…」と感じるとき、また「もしかしてアトピー性皮膚炎ではないかしら」と不安になるとき。そんな日常のささいな心配事を、安心してご相談いただける外来です。

アレルギーに関する専門的な知識と経験をもとに、保護者の皆さまの不安を少しでも軽くし、安心して子育てを続けていただけるようサポートいたします。

「こんなことを聞いてもいいのかな？」と思うような小さな疑問でも大丈夫です。どうぞお気軽にご利用ください。



※イラストの南天は、気管支喘息などの咳を鎮める効果があり、アレルギーを象徴する植物です。また、南天(なんてん)は、「難を転じて、福となす」という意味があり、玄関先に植えられることが多いです。

掲示板

臨時休診 3月21日(土)
休日当番 5月5日(祝)

※マイナンバー使用時にお子様ですと顔認証がうまく作動しない場合が多々ありますので4桁の暗証番号もご確認お願いいたします。

